

霧島山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	宮崎森林管理署都城支署・鹿児島森林管理署
所在地	宮崎県・鹿児島県
面積	6,354.22 ha
設定年	平成 13 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、宮崎県と鹿児島県との県境をなす霧島山系に位置する。標高 500m と標高 1,100m の地域にはモミ、ツガ、アカマツ、カシ類、イスノキ群系、標高 1,100m 以上の高地にはハリモミ、アカマツ、ブナ、ミズナラ、スズタケ群系がみられ、アカガシ群落、ブナ、スズタケ群落など暖温帯から冷温帯までの垂直分布を有し、自然状態が良好に保たれ、南九州としては霧島山固有種をはじめ貴重な種が保存されている。



保護林の遠景



キリシマギンリョウソウ

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査、植生保護柵調査
結果概要	・林相は成熟～極相林となっており、保護対象樹種及びその後継個体の生育も確認され、現時点では現状は維持されていると考えられる。 ・一方で、スズタケの衰退に伴う下層植生の植被率の低下や種構成の変化、シカの食害に伴う下層植生の衰退や表土流亡が全域的に生じており、シカによる被害が継続すれば現状の維持に影響が出ることが懸念される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

若杉山スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	福岡森林管理署
所在地	福岡県
面積	3.74 ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、篠栗町と須恵町界で篠栗町側にあり、若杉山の中腹に位置している。林相は、英彦山、行者スギと共に老齢大径木を主体とした林分となっており、スギ老齢人工林を保護し、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の遠景



スギ大径木

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相は極相林となっており、林冠を構成する保護対象樹種のスギの生育は健全で、前回調査時と比較し高木層の植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・一方、低木層については植被率の低下が見られ、草本層においてもシカの不嗜好植物へ種構成が偏りつつあるため、このままシカによる下層植生への被害が継続すれば現状の維持に影響が出ることが懸念される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

唐泉山スダジイ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	佐賀森林管理署
所在地	佐賀県
面積	9.87ha
設定年	昭和 63 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、佐賀県西部の唐泉山山地の主峰唐泉山の山頂部に位置し、山頂を取り囲むように分布している。林相は大部分がスダジイのほか、タブノキ、ウラジログシなどが生育する高齢の林層構造が発達した天然林となっている。スダジイの保存を目的として設定された。



保護林の遠景



タブノキ大径木

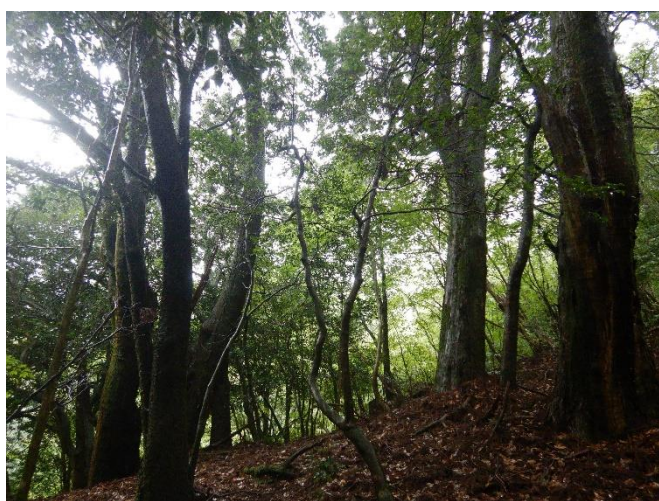
モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(10 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかったほか、保護対象樹種の後継個体の生育も確認されたことから現状は維持されていると考えられる。 ・一方で、成熟木の枯損も確認されカシノナガキクイムシの穿孔痕が確認されていることから、今後の被害拡大に注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

脊振山ブナ等希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	佐賀森林管理署
所在地	佐賀県
面積	4.58ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、標高 800mを超える峯が東西に連なる脊振山地に位置する。林相は、一部にスギ植栽木が見られるが、大部分は、枯損を含むブナ、アカガシ、クマシデ、イヌシデ、コハウチワカエデ等の広葉樹林となっている。温帯性の代表的天然林を保護し、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の概況



スズタケ枯死稈

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相は、アカガシ、イヌシデ、クマシデ、コハウチワカエデ、リョウブ、ヤマボウシなど温帯性の樹木が構成する天然の成熟林となっており、ブナ以外の樹木の生育状況は健全であった。 ・高木層においてブナの枯損が確認されたものの、明確な枯損要因は不明であり、病虫害や気象害によるものか今後の推移に注意が必要である。 ・林床のスズタケが欠落または矮小化し、スズタケの枯死に伴う低木層及び草本層の植被率の大幅な減少により、種構成や植被率に大きな変化が生じていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

萱瀬スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	長崎森林管理署
所在地	長崎県
面積	3.73ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、鳥甲山の西、萱瀬川上流部に位置する。 林相はスギ老齢林であり、林齢は 240 年生以上、径級は 40～130cm、幾分樹冠は疎開している。「萱瀬スギ」老齢林の保存を図り、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の遠景



森の巨人たち 100 選選定木の「大名杉」

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(10 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護対象樹種であるスギが林冠を構成し生育は健全であった。 ・前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

萱瀬ヒバ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	長崎森林管理署
所在地	長崎県
面積	0.3ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、鳥甲山の北東、萱瀬川ダムの上流に位置する。萱瀬川谷頭部にある旧大村藩が造成したとされている傾斜地の人工林で、林相は林齢 150 年以上のヒバを主体に、スギ、ヒノキ、イヌマキが混生する。「萱瀬ヒバ」老齢林の保存を図り、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の遠景



保護対象樹種 ヒバ

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(10 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められず、発達した老齢林となっている。 ・植被率が高く見通しの悪い林内となっており、シカの食害は生じていなかった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

水源スギ等希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本森林管理署
所在地	熊本県
面積	1.11ha
設定年	昭和 39 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、旧藩時代に造成された人工林の一部で、端辺原野から続く開析残地の標高 600m付近に位置する。林相は、直挿、挿木苗にて造成されたとされるスギとヒノキ(ナンゴウヒ)の老齢林となっている。旧藩時代植栽のスギ、ヒノキ老齢林の保存を図り、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相はスギ・ヒノキ植林となっており、スギ大径木が点在する発達した老齢林となっている。 ・下層はアオキが繁茂しており、林内の見通しは悪い。アオキの幼木もあり、種数は少ないものの植被率の非常に高い林相となっていた。 ・シカの剥皮被害が僅かに確認されたことから、今後の下層植生の衰退には注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

北向山コナラ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本森林管理署
所在地	熊本県
面積	77.58ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、阿蘇外輪山の立野火口瀬の南側に位置している。林相は、ヤブツバキクラス域(常緑広葉樹林帯)に属し、シラカシ、タブノキ、コナラ等の広葉樹を主体とする林分となっており、国の天然記念物(「阿蘇北向谷原始林」)にも指定され、九州中央部に残存する自然林としては学術上高く評価されている。



保護林の遠景



スギ大径木

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林冠をアカガシ、ケヤキ、ウラジログシが構成し、その中にスギとヒノキが混生しており、林相は成熟林から極相林となっている。 ・保護対象樹種はコナラ、クヌギ、ウラジログシ、クマシデとなっているが、森林詳細調査区及びその周囲においては、前回調査時と同様、ウラジログシ以外確認されなかった。ウラジログシの生育は健全であった。 ・一方、下層植生は貧弱で林内の見通しがよく、シカによる下層植生への被害が顕著であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

金峰山スギ等希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本森林管理署
所在地	熊本県
面積	77.58ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、金峰山(一の岳)の東方山麓、標高 200m に位置している。林相は、スギ人工林、ヒノキ天然林となっており、一部にサワラや薬用植物で野生化したテンダイウヤク等も見られる。スギ、ヒノキ、サワラ老齢林の保存を図り、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(10 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められず、発達した老齢林となっている。 ・病虫害、気象害ともになく健全であるが、保護林の周辺の竹林面積が拡大傾向で、保護林内にも竹の侵入が顕著である。 ・植被率が高く見通しの悪い林内となっており、シカの食害の影響は生じていなかった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

市房モミ等希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本南部森林管理署
所在地	熊本県
面積	55.8ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、熊本県水上村と宮崎県西米良村の県境に位置する市房山(標高 1,721m)を中心に広がっている。本来の林相は、市房山の山腹平衡斜面に位置するマンサク群落のほか、モミ、ツガ、ブナ、ミズナラ、コハウチワカエデ、ミズメ等が混生する天然林であったが、県境の急斜面の尾根部を除き、ニホンジカと風害の影響を受けた状態で残っている。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護対象樹種及びその後継個体の生育も確認された。 ・林相は極相林となっているが、高木層の衰退だけでなく森林自体の衰退が起こっており、このままでは保護林としての要件を満たさなくなることが懸念される。特に山頂付近の森林の衰退が甚大であった。 ・草本層は植被率が高かったが、シカの不嗜好植物のヤマカモジグサやバイケイソウが優占しており、種構成に偏りが見られた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本南部森林管理署
所在地	熊本県
面積	31.2ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、熊本県水上村と宮崎県西米良村の県境にある市房山（標高 1,721m）の西側中腹に広がり、標高 900m～1,400mの範囲に分布している。林相は、尾根部のツガ、ヒメコマツのほか、ケヤキ、サワグルミ等の大径木が見られる。ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキの保存を目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

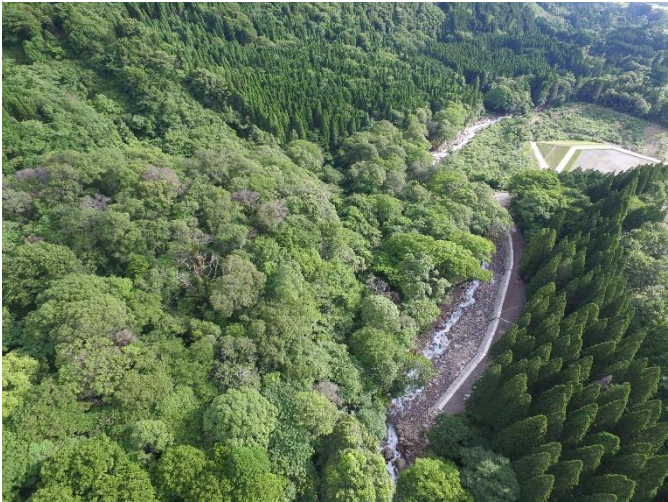
モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護林内は急傾斜地となっており、尾根部にはツガの大径木が点在する発達した老齢林となっている。 ・保護対象樹種及びその後継個体の生育も確認され、前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・高木層は健全だが、低木層以下はシカの植生被害が顕著である。林床植生は貧弱か、茂っていてもハイノキなどシカの不嗜好植物が目立った。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	熊本南部森林管理署
所在地	熊本県
面積	45.27ha
設定年	平成 20 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、熊本県球磨郡水上村の市房山地西側の下方斜面（標高 550m～950m）に位置する。林相はケヤキやカシ類などの大径木にゴイシツバメシジミの幼虫の食草であるシシンランが着生する林齢 175 年生以上の天然林と林齢 48 年生以上の天然生林である。



保護林の遠景



シシンラン移植木（カツラ）

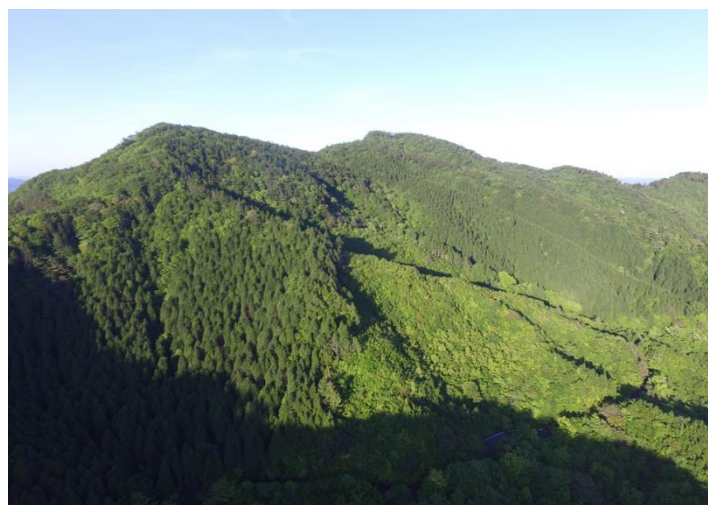
モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、動物調査、聞き取り調査
結果概要	・当保護林の林相はケヤキ群落及びツクバネガシ群落であり、高木層はウラジログシ、カツラ、ツクバネガシ、ケヤキが主体で林冠を構成する発達した老齢林となっている。 ・下層植生は貧弱で林内の見通しがよく、シカによる下層植生への被害が顕著であった。 ・ゴイシツバメシジミやシシンランといった希少種が継続して確認され、当保護林の発達した常緑広葉樹林がこれら希少種の生息・生育適地となっていると考えられる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

兵戸山モミ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	大分西部森林管理署
所在地	大分県
面積	8.37ha
設定年	平成 5 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、酒呑童子山(標高 1,181m)の東に位置し、標高約 970～1,150mの斜面に分布する。林相はブナ、イヌシデ、コハウチワカエデ、ミズナラ、モミなどを主体とする天然林となっている。モミ、アカシデ、ミズナラの保存を目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林床をスズタケが、林冠をブナやコハウチワカエデなどの落葉広葉樹が構成する発達した老齢の自然植生を呈する。 ・前回調査時と比較し、保護対象樹種も継続確認され、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・シカの食害はなく、健全な保護林と判断される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

檜葉アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	宮崎北部森林管理署
所在地	宮崎県
面積	51.4ha
設定年	平成 3 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、美郷町三方岳の麓、小丸川支流の渡川最上流部に位置し、標高 700m～1,300m 東に向いた急傾斜地にある。林相は、ツガ、モミ、コウヤマキ、ブナ、ミズナラ、ミズメ等が生育する林齢 150 年生以上の針広混交天然林となっている。アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラの保存を目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護林全体としては老齢段階の様相を呈するが、巨木は少なく胸高直径 50～70cm 前後の立木が多い。 ・保護対象樹種のうち、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラは健全であったが、森林詳細調査区及びその周囲においてはアカマツとヒメコマツの生育は確認されなかった。 ・下層植生は貧弱で、林内の見通しが良いか、植被率が高くてもシカの嗜好植物が繁茂し種構成に偏りが見られることから、シカによる下層植生への被害が顕著であることが推察される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

尾鈴アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	西都児湯森林管理署
所在地	宮崎県
面積	109.91ha
設定年	平成 3 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は松尾ダム東側の標高 777mの急斜面に位置する。 林相は、イスノキーウラジログシ群集で、そこにアカガシやアカマツが混生する林分構造が発達した林齢 150 年生以上の天然林となっている。アカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキの保存を目的として設定された。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相はイスノキーウラジログシ群集で、そこにアカガシやアカマツが混生する成熟林となっている。 ・林冠をウラジログシ、アカガシ、スダジイ、アカマツが構成するが、林床のスズタケが欠落していた。また、保護対象樹種のアカマツとタブノキは確認されたが、森林詳細調査区及びその周囲においてはコウヤマキとイチイガシの生育が確認できなかった。 ・下層植生は貧弱で林内の見通しが良く、シカによる下層植生への被害が顕著であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

尾鈴コウヤマキ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	西都児湯森林管理署
所在地	宮崎県
面積	14.67ha
設定年	平成 3 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は尾鈴山(標高 1,405m)の南方で、矢苦岳(標高 1,330m)を中心とした尾根の東西に広がり、標高 1,250m～1,330mに位置する。林相は、ブナ、アカガシ、イヌシデ、ミズメ等の広葉樹林に、コウヤマキ、ツガ等が混じる天然林となっており、特に、やせ尾根並びに平坦尾根部にはコウヤマキが群生する。



保護林の遠景



コウヤマキ

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護対象樹種はコウヤマキであり、本種の生育は健全であった。また、コウヤマキの後継個体も確認され、その後継個体の生育も確認され、前回調査時と比較して植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・一方で、下層植生は貧弱で林内の見通しが良く、シカによる下層植生への被害が顕著であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	宮崎森林管理署
所在地	宮崎県
面積	8.21ha
設定年	平成 2 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、宮崎大学演習林の北部に位置し周囲は全て国有林である。林相は、イスノキ、ウラジログシ、イチイガシなどからなる天然広葉樹林となっている。イチイガシの保存を目的として設定された。



保護林内の概況



アラゲサンショウソウ

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護林全体としては成熟から老齢段階の様相を呈するが、基本はイスノキーウラジログシ群集となっており、胸高直径 50cm 前後の立木が優占する成熟林と判断される。 ・下層植生は豊かに繁茂しており、前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかったものの、シカによる下層植生への被害が、特に嗜好植物である低木層及び草本層のアオキを中心に進行していた。 ・高木層において、全2プロットで枯損木が3本以上確認され、カシノナガキクイムシの痕跡等から病虫害による枯損と考えられた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	宮崎森林管理署
所在地	宮崎県
面積	59.14ha
設定年	平成 2 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林の北側に位置する。林相は、イスノキ、アカガシ、ウラジロガシ、スダジイ、タブノキなどからなる天然広葉樹林林であり、この広葉樹林中にイヌマキが生育する。長距離移動性の森林性夏鳥のサンコウチョウの繁殖地としても知られている。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林冠をイスノキ、アカガシ、ウラジロガシ、スダジイ、タブノキなどが構成し、林相は成熟林から極相林となっている。 ・前回調査時と比較し、保護対象樹種も継続確認され、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・高木層及び亜高木層は健全で、シカによる植生被害を受けやすいアオキの立木数も多い一方で、下層植生は貧弱で、アオキが生育していない箇所もあった。本来の植生の可能性も考えられるが、周辺でシカの剥皮被害が確認されていることから、シカによる植生被害が生じている可能性もある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

重永カヤ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	宮崎森林管理署
所在地	宮崎県
面積	7.38ha
設定年	平成 2 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、国見岳(標高 746m)の北東にあり、本庄川(綾南川)の支流である倉谷上流部の標高 600m～820mに位置する。林相は、ウラジロガシが優占する中に、大径木のモミ、タブノキが混生する天然林となっており、大径木のカヤやケヤキも生育する。



保護林の遠景



保護林内の概況

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相は、ウラジロガシが優占する中に大径木のモミやタブノキが混生する老齢林となっている。 ・低木層植被率は低く、シカの嗜好植物であるハイノキが僅かに優占する程度で、林内の見通しは非常に良かった。 ・草本層の植被率が極めて低く、貧弱であることから、シカの採食の影響を受けていると推察される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

川添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	鹿児島森林管理署
所在地	鹿児島県
面積	79.26ha
設定年	平成元年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は鹿児島県湧水町の栗野岳山頂(標高 1,102m)とこれから北北西に約 1,500m先まで延びる保護樹帯の北東斜面に位置する。イスノキ、タブノキ、アカガシ等の常緑天然広葉樹とその上部の落葉広葉樹からなる林齢 120 年生以上の天然林で構成されている。



保護林内の概況



スダジイ大径木

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・保護林全体としては成熟から老齢段階の様相を呈するが、巨木は少なく胸高直径 30～50cm 前後の立木が多い。 ・前回調査時と比較し、保護対象樹種も継続確認され、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・下層植生は貧弱で林内の見通しが良く、シカによる下層植生への被害が顕著であった。ギャップ下でも草本層の植被率が低く種数も少ないことから、シカの採食の影響を強く受けていると推察される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	屋久島森林管理署
所在地	鹿児島県
面積	79.26ha
設定年	平成元年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、西之表市の南部、種子島のほぼ中央部に位置する。旧種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林と旧早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林の2つが統合された保護林である。林相は、イスノキ、スダジイ、マテバシイ等の広葉樹林にヤクタネゴヨウが混生する天然林となっている。



保護林内の概況



ヤクタネゴヨウ

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相は成熟林から極相林となっている。 ・林冠をイスノキ、スダジイ、マテバシイが構成し、その中にヤクタネゴヨウが混生し、保護対象樹種の生育が確認された。 ・下層植生は、旧種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林では豊かに繁茂し、種多様性も見られる。一方で、旧早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林は林内の見通しが良く、シカによる下層植生への被害が顕著であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	屋久島森林管理署
所在地	鹿児島県
面積	61.54ha
設定年	平成 26 年
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は、屋久島の西部に位置し、屋久島森林生態系保護地域に隣接している。林相としては、林齢 150 年生以上の常緑広葉樹天然林及び林齢 40 年生程のシイ類、カシ類を主とする常緑広葉樹二次林に、ヤクタネゴヨウが混生している。



保護林の遠景



ヤクタネゴヨウ最大木

モニタリング調査概要

実施年度(実施間隔)	令和6年度(5 年ごと)
調査項目	資料調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、森林概況調査、聞き取り調査
結果概要	・林相は成熟林から極相林となっており、保護対象樹種及びヤクタネゴヨウを除いたそれらの後継個体の生育も確認されたことに加え、前回調査時と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められなかった。 ・一方で、下層植生は貧弱で林内の見通しが良く、シカによる下層植生への被害が顕著であった。 ・また、アクセスルート上にてカシノナガキクイムシによる被害木が複数確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。